

# CR (絶滅危惧 I A 類)

食肉目 ネコ科

カテゴリー判定基準：C-2

## イリオモテヤマネコ

*Prionailurus bengalensis iriomotensis* (Imaizumi, 1967)

英名：Iriomote cat

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
E	EN	CR

日本固有亜種

1967年に新種記載された、ベンガルヤマネコ (*P. bengalensis*) の亜種で、沖縄県西表島 (289km<sup>2</sup>) のみに分布する。生息数は100頭前後と推定され、近年とくに低地で減少傾向にある。生息地の改変、交通事故などが存続を脅かす要因と考えられている。種の保存法による国内希少野生動植物種に指定され、保護増殖事業が進められている。

The Iriomote cat (*Prionailurus bengalensis iriomotensis*), discovered in 1967, is endemic to Iriomote Island (289 km<sup>2</sup>) of Okinawa Prefecture. The preferred habitat is forested lowlands of coastal areas. The population is estimated at about 100, but considered to be recently in decline particularly in lowland areas. The main factors threatening the subspecies are habitat destruction and road kills. The cat was designated as a National Endangered Species in 1994 and various conservation programs are being conducted.

### 基礎情報

■**形態** 背中は焦茶色で、側面には灰褐色の地に暗褐色の斑紋が散在する。腹面は淡色である。後頭部から額、眼の周りに白と黒の縞が走る。耳介は先が丸く、背面に白斑がある。オスの方が大きく、頭胴長はオスで約55~60cm、メスで50~55cm、尾長23~24cm、体重はオス3.5~5.0kg、メス3.0~3.5kg。体色が全体に黒っぽく、四肢や尾が太い。

■**分布域** ベンガルヤマネコの1亜種で、沖縄県八重山郡西表島 (289km<sup>2</sup>) のみに分布する。

■**生息環境** 湿地、河川、沢沿いをよく利用し、マングローブ林、農耕地周辺から海岸部も利用する。

■**生活史** 基本的に夜行性で、朝と夕方に活動のピークがある。単独性で、行動圏の大きさはオスが1~10km<sup>2</sup>、メスが1~5km<sup>2</sup>であるが、地域、季節、個体によって差が大きい。泳ぎが巧みであり、また樹上でも狩りをする。餌動物は小型哺乳類、鳥類、爬虫類、カエル類、昆虫類

と多様で、とくによく捕食されているのはクマネズミ、シロハラクイナ、シロハラ、キシノウエトカゲ、マダラコオロギなどである。発情のピークは2~4月で、出産は4~6月と推定されている。出産、育児についての情報は少ないが、産仔数は2頭という事例が報告されている。

### 現在の生息状況

■**分布域の現況** 生息情報は標高200m以下の低地部に偏り、山地部には少ないとされていたが、近年の研究では全島に広く分布することが示されている。近年における分布域の大きな変化は知られていない。

■**生息地の現況** 西表島は、90%以上が森林に覆われ、その大部分は常緑広葉樹の自然林と二次林で、人工林 (主としてリュウキュウマツ林) は6.3%にすぎず、森林域の変化は少ない。西表石垣国立公園 (12,506ha、1972年指定)、西表島森林生態系保護地域 (20,470ha、1991年指定) などが設定されている。内陸山地の生息地は大半が国有林として保護されているが、イリオモテヤマネコの好適生息地である低地部については法的な保護措置がなされていないことか

ら、農地改良、観光開発、道路整備が進められている。

**■個体数の現況** 生息数は、100頭前後で安定していると考えられていた。しかし近年、低地部において定住個体数が減少傾向にあり、新たな方法による再計算の結果、1994年の108～118頭から2008年の100～109頭、減少率は全体で約7～8%、標高200m以下の低地部で約9%の減少と推定された。

### 存続を脅かす要因

農地改良 (15-2)、観光開発 (23)、道路改修 (24) などによる好適生息地の改変、劣化、消失、交通事故 (26)、イヌによる捕殺 (52-3) などが存続に悪影響を及ぼす主たる要因と考えられている。交通事故死は、1978年から2000年までの期間に29件 (1.3件/年)、2001年から2011年までに25件 (2.3件/年) が報告されており、報告数は増加傾向にある。イエネコからの感染症についても懸念されているが、これまでのところ確認例はない。

### 保護対策の現状

1972年に国の天然記念物、1977年に特別天然記念物、1994年に国内希少野生動植物種に指定されている。環境庁 (当時) により、1974～76年度に第1次特別調査、1982～84年度に第2次特別調査、1992～93年度に第3次特別調査が行われた。そして環境省により2005～07年度に「イリオモテヤマネコ生息状況等総合調査 (第4次)」が実施された。また、1979年から生息状況モニタリングが行われている。1991年には西表島の

中央山岳部を中心に国指定西表鳥獣保護区 (3,841ha、うち特別保護地区2,306ha) が設定され、2011年には拡張 (10,218ha、うち特別保護地区9,999ha) された。また、1995年に開設された西表野生生物保護センターが調査研究、保全活動の拠点となっている。環境省、地元自治体を含む関係諸機関による交通事故防止のため標識の設置、道路構造の工夫などが行われている。ほかに林野庁による国有林における巡視等のモニタリング、民間団体による保護活動、啓発活動なども行われている。

### 特記事項

ミトコンドリアDNAの分析から、ベンガルヤマネコの亜種で、約20万年前に分岐したとする見解がある。また、個体群内の遺伝的多様性は低いことが示唆されている。西表島は野生のネコ科動物が自然分布する島としては世界でもっとも面積が狭い。

### 参考文献

- Imaizumi, Y., 1967. A new genus and species of cat from Iriomote, Ryukyu Islands. J. Mammal Soc. Jpn., 3(4): 74-105.
- 伊澤雅子, 2010. イリオモテヤマネコ. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物—動物編—, pp. 25-27. 沖縄県自然保護課.
- Masuda, R. and M. C. Yoshida, 1995. Two Japanese wildcats, the Tsushima cat and the Iriomote cat, show the same mitochondrial DNA lineage as the leopard cat *Felis bengalensis*. Zoological Science, 12: 656-659.
- Okamura, M., T. Doi, N. Sakaguchi and M. Izawa, 2000. Annual reproductive cycle of the Iriomote cat *Felis iriomotensis*. Mammal Study, 25: 75-85.
- 琉球大学, 2008. 平成19年度イリオモテヤマネコ生息状況等総合調査 (第4次) 報告書. 琉球大学, 178pp.
- Watanabe, S., 2009. Factors affecting the distribution of the leopard cat *Prionailurus bengalensis* on East Asian islands. Mammal Study, 34: 201-207.

執筆者：石井信夫 (東京女子大学)